

ザ・ジャーナル!!

Vol.4
III

“やさしさ便り～岡山医療センターの今”

URL <http://www.hosp.go.jp/~okayama/> E-mail info@okayama3.hosp.go.jp

CONTENTS

This is our hospital ●病院フェスタ ————— 2～4

●オープンスクール ●新任Dr紹介 — 5

●リソースナーズ室通信 ●連携診療施設紹介 ————— 6

ジャストナウ ●血液内科 ————— 7～9

シリーズ ●岡山医療センター物語 第15話「中学生の職業体験」 ●スキルアップラボより ————— 10～11

●病院活動案内 ●研修室だより ————— 12



写真 ●病院フェスタ(2009.11.7)

地域医療支援病院・がん診療連携拠点病院

岡山医療センターの理念

一人にやさしい病院— をめざして
—Human Friendly Hospital—



- 1: 患者さまにやさしい病院を目指します
- 2: 病院で働く人にやさしい病院を目指します
- 3: 地域の人にやさしい病院を目指します

今年も成功!病院フェスタ開催

副看護部長 井原 光枝

11月7日(土)、晴れの国岡山!今年も秋晴れとなり第3回目『病院フェスタ2009』が開催されました。今年も「病院を見て見よう、楽しもう」をもとに「皆で熱く準備し!成功しよう!」をスローガンとし、各イベント、体験コース担当者は“さすが!仕事の達人”となり、綿密なスケジュールと準備が進められ、当日を迎えました。例年好評の外科体験、院内探検等に加え今年は、午後からこども夢未来プロジェクトの子ども達によるチャリディング、うらじゃ踊り、市民公開講座「小児がんについて」を開催し、更に盛り上がりました。昨年並みの約2000名の来場者があり安堵したところですよ。来年も皆様のご協力の下、“みんなで楽しく”をモットーとし、新たにチャレンジしていきたいと思っています。



院内探検ツアーを担当して 副看護師長 鵜原 智美



今年、「楽しく・クイズに答えて賞品をゲットしよう!」を合言葉に、院内探検ツアーを開催。隊長はツアーの旗を持ち、副隊長はウサギやゾウなどのお面をつけ、動物探検隊を作りご案内。参加者は、小学生を中心に2歳から上は50歳代までの91人でした。ドクターやナース姿で“なりきり写真”を撮り、パスポートに貼り、いざ出発!!

新生児室・リハビリ・検査科・放射線科を探検しました。昨年より参加可能人数を増やしたため、参加者が十分楽しめるか不安もありましたが、「赤ちゃんが小さくてかわいかった。」「顕微鏡でカビを見た。すごかった」「クイズ出来たよ、また来年もしたい。」と大好評で終わることができました。



外科系結び体験



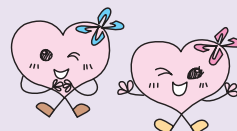
臨床検査体験



起震車体験



メタボを学ぼう





看護体験コーナー

看護師長 野村 京子

昨年に引き続き、看護体験コーナーでは、白衣に着替え、写真を撮影し、聴診器で自分の心臓の鼓動を聞き、消毒・包帯を巻いてみるという体験を、116名の方にしていただきました。予約が少ないと聞いていたため、人が集まるだろうかと心配していたにも関わらず、当日予約の子供さんや中学・高校生で枠が一杯になり、スタッフ一同、やる気倍増しました。白衣姿の子供たちは、嬉しそうにはにかみながらナイチンゲールと並び、付添いのご家族もニコニコしながら、さかんにカメラのシャッターを切っていました。心音、血圧のコーナーでは、初めて聞いた自分の心臓の音に不思議そうな表情で、「聞こえた!」と喜び、スタッフの看護師さんから血圧の測り方、血圧の意味などを教えてもらって、身体への興味が増した様子でした。この他、模型を使った採血体験、傷の消毒・包帯法体験、グリッターバッグを使った手洗い指導などを通して、看護師さん気分を満喫してもらいました。指導にあたったスタッフの様子を見てみると、子供達以上に楽しみながら子供たちと接しているように見え、胸を張って看護師という仕事の魅力を伝えているような気がしました。



看護体験コース



院長体験



手術室探検



救急蘇生体験



屋台・綿菓子コーナーを担当して

栄養管理室・調理師 柚木 京子

毎年、病院フェスタが開催される時は、裏方となり調理室でおいしい「おでん」や「カレーライス」「豚汁」を作ってきましたが、今年はじめて実演することとなった「綿菓子」の担当者として、「表舞台」でお手伝いすることになり、不安と緊張でドキドキでした。この「綿菓子」、作るのを見た目よりなかなか難しく、はじめの頃はお客様に申し訳ないような商品となってしまいました。しかし、ボランティアの学生さん達のがんばりで、一流商品にも負けないくらい、綺麗に丸くふわっとした「綿菓子」ができるようになり、とても感心しました。そういうわけで、「綿菓子」は学生さんに任せ、私は「おでん」や「カレー」をせっせと運びましたが、あっという間に時間が過ぎ、いつの間にか終了時間が来てしまいビックリ。更に「綿菓子」にも長蛇の列ができていて二度ビックリ。『綿菓子マスター』となった学生さん達に感謝の気持ちで一杯になり、来年のフェスタも是非お願いしたいと思いました。とても楽しい一日でした。

This is our hospital

第1回がん市民公開講座

がん教育研修部門



フェスタの締めくくりに、がん診療連携拠点病院としてはじめての市民公開講座を開催しました。会場となった附属看護学校の講堂には、フェスタ帰りの親子連れや、看護学校オープンスクールに来校した高校生などが詰め掛け、当院小児外科の後藤隆文医長による、「小児がんについて」というテーマの講演に熱心に耳を傾けていました。小児がんに限らず、急変を来す小児の病気、注意しておくべき徴候ということにまで話が及び、「子を持つ親の心構え」にもなったのではないのでしょうか。次回『がん市民公開講座』は、来

年1月9日(土)に、『ここまで進んだ血液がんの治療』をテーマに予定しています。会場は、岡山国際交流センターです。乞うご期待！
(詳しくは当院ホームページをご覧ください)



勘定奉行よりひとこと

企画課契約係長 忌部 明年

今年で3回目を迎えた病院フェスタも、晴天に恵まれ無事終了しました。

今回、事務部企画課の3人の契約係が、病院フェスタの物品購入の手配をさせていただきました。

とにかく仕事が忙しい病院ですから、対応が事務的(人によっては冷たいと言われるかもしれませんが…)になりますが、小原さんの丁寧な対応と笑顔、池田君の癒される黒縁のメガネに助けられると共に、今年は現場からの物品要望も早くいただき、かつ無茶なお願いもありませんでしたので無事乗り切ることができました。「やるからには成功させる」と、職員の皆さんの気概もひしひしと感じ、職員の一体感も共有できたのはよかったと思います。

当院の病院経営も、右肩あがりの時期が終わり、今後はいかに費用の支出を抑えるかが課題となります。これも職員の皆さんの協力がなくては出来ませんので、何かとお願いすることも増えると思いますが、何卒黒縁メガネに免じてよろしく願いいたします。



小原

池田

忌部

看護学校オープンスクール開催 看護学校 猪上 真紀

看護を志している人達に、1人でも多く岡山医療センター附属岡山看護学校を知ってもらうため、オープンスクールを実施しました。

今年は、病院フェスタの日にも同時開催し、5月、7月、9月、11月(土曜日)の計4回実施しました。その結果、昨年は189名でしたが、今年は279名という多くの参加者をお迎えする事ができました。参加者の多くは県内の高校3年生でしたが、九州、四国、関西などからも参加していただくことができました。また、今年は昨年に比べて保護者の参加やリピーターが多かったことが特徴的でした。内容としては、昨年好評であったフィジカルアセスメントのシミュレーター&トレーニングモデルのフィジコを用いた聴診や、妊婦体験、沐浴、学校・寮案内、病院見学などを行いました。看護技術コーナーでは、1年生が習ったばかりの技術であるベッドメイキングを直前まで練習し、丁寧に伝えることができ、学生自身の達成感が得られる機会にもなりました。

参加後のアンケート結果からは、「学生も先生も親切で感じが良かった」や「学校と寮の設備が整っていてきれいだった」など、嬉しい声も聞かれました。また、最も興味深かったものとして挙げられていたのは「昼食時の在校生との交流」、「病院見学」でした。

実習施設である岡山医療センターの病院見学として、NICUやプレイルームの見学をさせていただいたことで、小さな生命を守る看護師の役割や、看護学生として実習させていただくイメージをリアルに感じることができ、それらの体験が学生確保に繋がっていくのだと思います。

今回のアンケート結果からも、小児医療に興味を示している参加者が多く、今後も看護を目指す学生確保に向けて、当院の特徴を活かしたPRを行っていききたいと思います。



新任皮膚科医長ごあいさつ



皮膚科医長 浅越 健治

10月1日より皮膚科医長として働かせていただき、このような活気ある立派な施設で仕事ができることを大変ありがたく思っております。前任地の岡山大学皮膚科では皮膚悪性腫瘍を専門に診療を行ってまいりました。より正確な診断、進行度の把握に基づいて、個々の患者さんにとって過不足のない適切な治療を心がけております。専門領域以外でも、質の高い医療を提供できるよう努力してまいります。好きな言葉は(なかなか実行できませんが)“平常心”です。言葉の通りの意味に加え、“常に平らかな心”をもって患者さんをはじめとする周囲の方々と接していければと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任Drご紹介 (本年5月以降新しく着任したDrの紹介です)



形成外科 高田 温行

平成9年卒業で、本年9月1日より勤務しております。形成外科全般、また、頭頸部、乳房等の再建にも積極的に対応させて頂きたく存じます。患者さまのQOL改善のため精一杯努力したいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。



外科 森 秀暁

1999年卒業後、市中病院での外科勤務、大学院での研究の後、2007年4月より当院外科に勤務、2009年9月1日付けで非常勤職員より常勤職員採用となりました。外科全般を担当しております。引き続き宜しくお願い申し上げます。

リソースナース室通信

Vol.3

今回は感染管理認定看護師からの通信です。

リソースナース室では「少しでも認定看護師について職員のみなさんに知っていただきたい」「仲間をもっと増やしたい」「活動の場を広げたい」という思いから年4回の講演会を計画しています。8月は緩和ケア認定看護師による「緩和ケアの基本」10月は室員全員によるシンポジウム「認定看護師になるために」を企画しました。



交流会の様子です



109名の参加者に対して、なぜ認定看護師になろうと思ったのか、認定看護師になるためにどう行動すればよいか、認定になるにはどのくらいお金がかかるのか、病院からの支援はどのようなものかなどをお話しました。またシンポジウム終了後は参加者との交流会を行いました。お茶を飲みながら認定看護師と直接話をして、今後の進路の相談や活動の具体的な内容をお話しました。これらの活動を通して認定看護師を目指す仲間がもっと増えるきっかけになればと思っています。

～地域医療連携室～

連携診療施設紹介 医療法人 山谷医院 院長 山谷 幾道

当院では、「かかりつけ医」の先生方と協力して患者さんの健康を見守っていく、「病診連携」の体制をとっています。今号から、当院と連携している診療施設を順次紹介してまいります。

我々医師の仕事とは、いかに早く患者さんの痛みを見つけ出し、取り除いてあげるかと言う事だと思います。痛みとは、肉体上のものだけでなく心の問題も大いに関わっています。その為には、我々医師は患者さんの良き相談相手でもあるべきだと思います。他人の痛みを自分の痛みとして感じる事が出来れば、どんなに難しい痛みにも立ち向かっていく勇気が沸きます。病院—医院—患者さん、この3者が手を取り合って痛みに向かっで行きましょう。そんな医院を目指したいと思っています。



住所	岡山市北区吉宗429-3					
電話	086-294-2987					
診療科目	内科、外科、整形外科(入院設備有り)					
診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●
15:00~18:00	●	●	●	●	●	●

- 特色**
- ・内視鏡検査に力を入れている
 - ・漢方治療と西洋的治療の融和
 - ・疼痛 ・リハビリ管理

ジヤスト ナウ

J u s t N o w

血液内科

朝倉 昇司、下野 玄英、角南 一貴

●血液疾患の特徴

血液内科では白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性疾患や、自己免疫性溶血性貧血や血小板減少症などの良性疾患の診断と治療を行っています。血液疾患領域は、その病態の解析が分子レベルで日々進歩しており、診断法および治療法も急速に変革されるという特徴があります。化学療法をはじめとして分子標的療法、造血幹細胞移植に加えて補助療法や放射線療法などを併用しながら刻々と変化する新しい知見に基づいて治療を計画してゆきます。

血液内科について

●血液疾患の診断

血液検査で異常がみられた場合はまず末梢血塗抹標本を鏡検し、必要に応じて造血の場である骨髄を検査します。骨髄穿刺針により吸引された骨髄液により、1) 顕微鏡による形態観察 2) 染色体分析 3) 細胞表面抗原検索 4) 疾患特異的遺伝子検索 などをを行います。リンパ節腫大などで悪性リンパ腫が疑われる場合は生検が必須であり、生検組織を 1) 病理組織検査 2) 細胞診 3) 染色体分析 4) 細胞表面抗原検索 などにより検討します。細胞表面抗原や染色体分析などの結果に基づいて疾患の予後や治療法が規定される場合も多く、治療開始前に可能な限り詳細な検討を行うことがより重要となっています。その他疾患によっては、X線検査やCT・MRIなどの画像診断も加えて治療方針を決定します。

●血液疾患の治療

免疫不全や易出血性など血液疾患特有の急激な身体的変化や、疾患・治療によってもたらされる精神的变化に対応するため、医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカーなど多職種間で情報を共有し、チーム医療を実践しています。また高度の血球減少を伴う血液疾患や強力な化学療法、造血幹細胞移植に対応するため、病棟には23床の無菌病床を設置しています。



骨髄採取

従来の化学療法に加えて近年、分子標的療法や造血幹細胞移植の進歩により血液疾患の治療成績は著しく向上しています。そこで今回はそれぞれの治療について簡単に御紹介させていただきます。

<分子標的療法>

正常細胞と腫瘍細胞の分子レベルの違いを利用して、正常細胞にできるだけ障害を与えず腫瘍細胞に作用する薬剤による治療を分子標的療法といいます。ここでは血液疾患で用いられる代表的な分子標的療法を取り上げます。

1) ゲムツズマブオゾガマイシン:商品名マイロターグ

急性骨髄性白血病細胞に高頻度に発現するCD33という分子を標的とした、化学療法剤を結合させたモノクローナル抗体です。CD33を発現した細胞に結合すると化学療法剤が細胞内へ取り込まれて腫瘍細胞を死滅させます。従来の化学療法との併用により治療効果の向上が期待されています。



2) イマチニブ:商品名グリベック

慢性骨髄性白血病に特徴的なフィラデルフィア染色体上に存在するBCR/ABLという遺伝子はBCR-ABLチロシンキナーゼという酵素を産生し、これが腫瘍細胞の増殖に大きく関与しています。イマチニブはこの酵素の働きを特異的に阻害することで、腫瘍細胞の増殖を抑える薬剤であることから、チロシンキナーゼ阻害薬と呼ばれています。経口薬であり外来治療が可能という利点があります。現在ではイマチニブに続いてダサチニブやニロチニブといった薬剤も使用できるようになりました。

3) リツキシマブ:商品名リツキサン

悪性リンパ腫のうち、B細胞性リンパ腫細胞上に存在するCD20分子を標的とした薬剤です。ヒトとマウスの免疫グロブリンを部分的に組み合わせた構造をもつことから「ヒト-マウス キメラ型モノ

クローナル抗体」と呼ばれています。腫瘍細胞へ抗体が結合すると生体内で免疫学的反応が起こり腫瘍細胞が障害されます。従来 of 化学療法剤と重複する副作用が少ないことが大きな特徴であり、従来の治療との併用により治療効果が著しく向上しています。

4) ボツテゾミブ:商品名ベルケイド

多発性骨髄腫に対して著しい治療成績の向上をもたらした分子標的療法です。腫瘍細胞内のプロテアソームという酵素を阻害することで、腫瘍細胞の維持や増殖を障害することから「プロテアソーム阻害剤」と呼ばれています。単独でも有効ですが、従来の治療と組み合わせることでよりさらに治療成績が向上することが分かってきました。

<造血幹細胞移植について>

1) 造血幹細胞移植とは

よく知られている骨髄移植とは、骨髄中の白血球や赤血球の元になる細胞(造血幹細胞)を移植することです。現在は造血幹細胞が血液や脾の緒の血液(さい帯血)にも存在することから造血幹細胞移植と総称されています。

白血病など血液の難病は、まず抗がん剤などによる治療が行われます。薬の治療では治癒が難しい

場合、移植が治療として行われます。病気の種類や患者さんの年齢、移植の時期によって成績は異なり、100%助かるわけではありません。しかし、移植を待っている患者さんにとっては骨髄バンクやドナーの存在が生きる希望となっています。

移植された骨髄が、血液をきちんと作るようになるために、拒絶を防ぐための免疫抑制剤や十分な移植前治療を行うことも重要ですが、白血球の型を一致させる必要があります。赤血球にはA型、B型、AB型、O型などの血液型があり、輸血の際には血液型を一致させないとなりません。白血球を始めとする全身の細胞にはHLAという型があり、臓器移植などの際にはこのHLA型が重要となっています。骨髄移植でもHLAの中のA座、B座、DR座という3つの遺伝子座が重要であるとされています。私たちはそれぞれの遺伝子座に2つずつ、合計6個のHLA抗原を持っています。

2) 骨髄バンクについて

兄弟・姉妹の間ではHLAが完全に合ったドナーが4分の1の確率で適合しますが、多くの患者さんは家族内にHLA適合ドナーを持っていません。家族外でのドナー探しが必要になりますが、他人とHLAが全て一致する確立は数百から数万人に一人にしか過ぎません。現在約27万人の方が骨髄バンクにドナー登録されていますが、それでもHLAがあわず骨髄移植を受けることの出来ない患者さんもおられます。



採取された骨髄

3) さい帯血移植とさい帯血バンク

さい帯血にはたくさんの造血幹細胞が含まれていますが、1990年代にさい帯血から分離された細胞を用いて移植を行う方法が開発されました。この方法だと拒絶が少ないため白血球の型が全て一致していなくても移植可能です。このため骨髄バンクでドナーの見つからない患者さんでも適合するさい帯血が見つかることがあります。また、凍結保存をしているので患者さんの状態に応じて移植の時期を選べる利点もあります。

4) その他の幹細胞移植

抗癌剤の投与の後に白血球を増やす薬を投与することにより、たくさんの造血幹細胞が血液(末梢血)に出現します。この造血幹細胞を採取・凍結保存し、移植することを自己末梢血幹細胞移植といいます。また健康な人で白血球を増やす薬を数日間投与することにより造血幹細胞が末梢血に出現し、これを採取・凍結保存する技術も確立されています。



血液内科スタッフ

骨髄バンクにドナー登録するには…?

日本骨髄バンク(JMDP)にお問い合わせください
フリーダイヤル
0120-445-445
<http://www.jmdp.or.jp>



職場体験学習・香和中学

当院の近隣にある岡山市立香和中学校では、「職場体験学習」を行っています。その一環として、7名の同校生徒が、3日間のプログラムで当院を訪問し、「病院で働く人々」を体験しました。

とても貴重な3日間 ～職場体験学習～

香和中学校2年 久山 寮納

11月11、12、13日と3日間、7名の香和中学校2年生が岡山医療センターで職場体験をさせていただきました。

一日目はおもに院内見学をしました。1階から11階まで、さまざまな所に行きました。病棟だけでなく、エネルギーセンターや栄養管理室、他に書ききれないほどたくさんの部屋を見ました。2日目は各グループでの病棟体験などをしました。私が行かせていただいたのが10階のA(整形外科系)病棟で、他にもリハビリ室や薬剤科・7階のB病棟で体験をさせていただきました。3日目はME室やスキルアップラボ室で体験したり、集中治療室を見学したりしました。

私が一番心に残った体験は2日目の病棟体験と3日目のスキルアップラボ体験です。病棟体験では白衣を着て、看護師さんのうしろについて回りました。1日看護師さんの傍らで、看護師さんの仕事を見てると色々な事がわかりました。看護師という仕事

は思ったよりも重労働で大変な仕事だと思いました。しかし同時にとてもやりがいのある仕事だということも知りました。患者さんと看護師さんの強い信頼関係が大切だということも知りました。今でも苦しい時に看護師さんが手をにぎった時の患者さんの安らいだ顔が忘れられません。看護師という職業のすばらしさが感じられた1日でした。3日目のスキルアップラボ体験では血液を採血したり、注射の練習をしました。思ったよりも難しく、手まどってしまいました。心肺蘇生の練習もしました。医療にかかわっている方々は本当にすごいと思いました。

命にかかわる仕事なので、大切な、難しい職業だと思いました。将来、私も命にかかわる仕事につきたいと思います。



病院で楽しく学ぼう! 職場体験学習 日程表

11/11(水)	9:10～ オリエンテーション 『病院ってどんなところ』	10:30～ 院内見学 栄養管理室	13:00～ 院内見学 検査室、医事、薬剤科、中央材料室 リハビリ室、エネルギーセンター 病歴管理室
11/12(木)	9:30～ 院内見学	10:00～14:30 各グループでの職場体験 ●病棟体験 ●薬剤・リハビリ他体験コース	14:30～ 意見交換会
11/13(金)	9:00～12:00 ME体験室	13:00～ スキルアップ・ラボ体験	14:20～ 15:00～ 意見交換会 体験学習終了

ようこそ! スキルアップ・ラボへ

当院の研修センター 愛称“スキルアップ・ラボ”をどうぞご利用ください。

スキルアップ・ラボを開設し2年めを迎えました。新人看護師入職前研修・研修医採用時研修や個人・部署単位で、などさまざまな形で研修し、利用後の有用性を得ることが出来ました。

そこで、今回、当院以外の医療施設の医師・看護師の皆様にもラボを活用していただくことにしました。ラボを活用していただくことで、医療技術の向上に少しでもお役に立つことが出来ればと思っています。

スキルアップ・ラボのご利用をお待ちしております（医療関係者以外の方の利用はできませんので、ご注意ください）。

ラボの利用時間：第4木曜日 14時～17時

申し込み方法：利用される1週間前までに、電話および別紙FAXをお願い致します。

受付時間 平日9時～15時

電話番号 086-294-9911 経営企画室長または職員班長

FAX番号 086-294-9255

それでは、研修風景をご覧ください。



静脈内留置針 1回でできますように



麻酔科医師による気管挿管の介助研修



脊椎穿刺・・・実際に使用するセットで



この画像は・・・指導医師とともに

★「看護師免許を持っているけれど、現在は家庭にはいつている。再就職もしたいけれど、現場を離れて長いから不安。」というような潜在看護師の方のために、『再就職チャレンジ講座』を開催しています。興味ある方は、副看護部長 井原まで、お気軽にご連絡ください。

[病院活動案内]

地域医療研修室 セミナー・講演会(1月～3月) 会場/当院4階大研修室 時間/19:30～20:30

日 程	種 別	演 者	
1月19日(火)	第96回初期治療セミナー	今時の消化器外科をご案内	消化器外科医長 太田 徹哉
2月16日(火)	第97回初期治療セミナー	他科の方々のための皮膚科の知識	皮膚科医長 浅越 健治
3月16日(火)	第98回初期治療セミナー	他科の方々のための形成外科の知識	形成外科医長 未延 耕作 ほか

●研修便り●

教育研修部長 佐藤 利雄

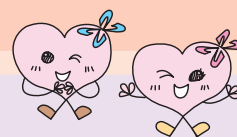
2009年4月から、当院院内に教育研修部が設立されました。

その目的は、院内で開催される教育研修に関する活動のまとめと情報の提供・共有を通じて、仕事への意欲と探求心を育むこと、そして楽しく働けてよりレベルの高い医療を実践出来ることを目指しています。この度から、ザ・ジャーナルにその活動の一部を「研修便り」として紹介させていただきますのでよろしくお願い致します。

今回は、今年10月23・24日に仙台で開催されました、第63回国立病院総合医学会での活動状況をご報告致します。発表者は、医局から10名、看護から7名、薬剤師から1名、理学療法士2名の計20名でした。

第63回国立病院総合医学会に参加して 看護師 馬來 尚恵

今回初めて、国立病院総合医学会にポスター発表の形で参加させて頂きました。学会には全国の国立病院系列職員の参加があり、そのすそ野の広さに驚くと共に国立病院系が実践している数々の医療活動を学び、自分自身その一員であることに気持ちが引き締まる思いでした。演題「医療事故初期対応シミュレーションの実施報告」の発表を行い、大勢の方々のご指導の元、幸いにも私のセッションの中でポスター賞を頂くことが出来ました。



編集後記

今年も、はや、年の暮れ。おらかな「丑」の響きとは裏腹に、重大ニュースが目白押しで、「猛牛」のような1年でした。今年の流行語大賞は、「政権交代」、トップテンには「事業仕分け」「脱官僚」「歴女」「草食男子」などなどかはいったとか。女性の活躍、「やさしい男性」の増加を反映したラインアップだと感じるのは私だけでしょうか。独法化以後5年を経て「新」岡山医療センターは、右肩上がりの「高度成長期」から、「成熟期」へとゆるやかに移行しつつあります。今話題の『坂の上の雲』。あの中に描かれている人々の創生期の昂揚感、スケールは違いこそあれ、この5年間の私たちの歩みと一脈通ずるものがあります。国民的関心を集めた事業仕分けの後には診療報酬改定が待っています。ドバイショックの余波も看過できません。当院を取り巻く医療環境は、まさに『天気晴朗(?)なれど波高し』。女性的な繊細さと男性的なダイナミズムを忘れない、持続可能な組織へと進化し続けたいものです。

(大森 記)

ザ・ジャーナル!!

第4巻 第3号

平成21年12月15日発行(年4回発行)
編集責任者 大森信彦
独立行政法人 国立病院機構
岡山医療センター 地域医療連携室
広報誌編集チーム
〒701-1192 岡山市北区田益1711-1
Tel.086-294-9911 Fax.086-294-9255
印刷:山陽印刷株式会社